

北海道自然保護協会

1979 一風不死岳(支笏湖)一

昭和54年8月

No. 32

協会活動状況

(特別の記事のないものは、すべて会場は事務所において)

●六月九日(土)

常任理事会

出席者 石川、辻井、新妻、狩野、大山、長谷川、高畑(参事)

議題

上熊牛茅室発電所計画に伴う環境調査について

去る六月二、三日にわたって大山理事と高畑参事が十勝の現地に赴いて調査してきた内容について、スライドを利用してながらの二人の説明を中心にこの調査を受託すべきか否かについて検討をかさねたが、十勝川水系の問題があり、全面的に担当することは不可能である。その一部か、調査方法についての意見か、調査結果についての検討部門に一役を担うかの分野担当が妥当として、会長よりその旨会社あて回答することになった。

●六月十日(日)

第七回環境週間記念親子記者座談会が住みよい環境づくり運動実行委員会主催のもとに日赤会館で開かれたが、狩野理事が出席した。

●六月十一日(月)

常任理事会の検討結果について、会長より電源開発協に回答した。会社側としてはその旨をもち帰り、どのように進めるかについて内部検討したい旨、返答さ

れた。

●六月十六日(土) 十七日(日)

第二十五回(形)日本野鳥の会全国大会が、北海道では初めての催しとして、苫小牧市郊外のウトナイ湖畔で開かれた。これは同時に、日本では最初の「野鳥サンクチュアリ」がウトナイ湖に決定されたことの意味を確認する大会でもあり、意義深いものであった。大会出席者約二〇〇人。

●六月十七日(日)

講演と映画の夕べ

映画 吹米の野鳥保護

講演

1 野鳥の保護区サンクチュアリ

日本野鳥の会研究部長 塚本洋三氏

2 野鳥とのふれあい

日本野鳥の会 理事 高野伸二氏

会場 札幌市教育文化会館

参加者 約五十名

●六月二十五日(月)

市役所議事課にて「月寒、精進川の保全整備に関する要望」の件が廃案となったので継ぎく審議についての手続をする(この件は昨年要望し、現地調査もなされたのに、審議未了のまま各議員の任期満了、選挙という事態になり、廃案となったものである)。

●六月二十七日(水)

「滝野すずらん丘陵公園起工式」とそれを祝す「祝賀会」が札幌開港建設部、道、市の三者主催で開催され、石川会長が出席。滝野国営公園はいよいよ建設に向かってスタートを切ることになった。

●七月二日(月)

会報三二号を会員及び関係方面發送

「月寒、精進川の保全整備に関する請願」の趣旨を説明するとともに紹介議員になっていただくべく、真駒内環境保全懇話会(市川正良氏外一名)、羊ヶ丘自然愛好会(高畑 滋氏)、当協会より会長、事務局局長が、道議会文教務副委員長長平野明彦(自)議員、星野健三(社)議員を個別に訪問した(道議会の場合も市議会と同様の結果となったので、陳情を請願に改めて再度出直しの形となったのである)。

●七月四日(水)

「月寒、精進川」の件で、市議会環境委員会が開かれたので、陳情者として八木副会長が趣旨を説明した。その席で、「更に検討をつづけるとともに、現地調査もしたい」旨回答された。市川、事務局長も出席。

●七月五日(木)

「月寒、精進川」の件で、道議会に会長、事務局局長、市川の三人が訪れ、関根建二(社、南区選出)、高木繁光(自、豊平区選出)、本間喜代人(共)、木下一見(道政クラブ)各議員にそれぞれ趣旨を説明した。

●七月六日(金)

前日に引きつづき、道議会に会長、事務局局長、市川の三人が訪れ、水岡 薫(自、南区選出)、高橋 勉(公) 両議員に、それぞれ趣旨を説明した。

●七月六日(金)

常任理事会

出席者 石川、八木、宗像、辻井、新妻、狩野、長谷川。

議題と内容

1 会誌の発行

北大図書刊行会とタイアップし、山口参与が担当、少しく色彩を変えて年度内に発行を目指す。

2 自然保護シリーズの発行

北大図書刊行会とタイアップし、辻井理事が担当、九月発行(一回目)を目指す。

3 坂本直行氏の複製画の発行

複製画の発行を改め、法人化の記念として、坂本直行氏の絵を購入することに意見の一致をみた。

4 自然保護講座の開催

この秋から実施することを目指し、高畑参与が担当。

5 講演会、懇談会の開催

時期、季節にふさわしい内容をえらび、地方での開催、他団体との共催もとりいれながら、常任理事会の都度、開催を検討する(今回は、七月下旬か八月下旬に日高をテーマとし、鮫島惇一郎氏、芳賀良一氏を講師として実施することに決定)。

6 自然に親しむ会

野田理事が担当し具体案を検討する。

7 全国自然保護大会

八月二十五、六日、富山市で開催されるが会長に出席してもらうことに決定。

8 その他

シンボルマーク作成の件、会費の郵便振替納入に伴う手数料を加入者負担にする件、腕章、バッジ、会員証の件など検討。

●七月八日(日)

自然保護団体連合主催の自然保護団体の代表者会議に会長出席。

●七月九日(月)

講演会の決定

日高山系の植物について 鮫島惇一郎氏

八月四日(土) 午後一時半より

日高山系の動物について 芳賀良一氏

八月十一日(土) 午後五時より

会場は両日とも札幌市教育文化会館

●七月十日(火)

「月寒、精進川」の件で、道議会に会長、事務局長、市川の三人が訪れ、三上勇(自)、藤井 猛(自)、党道連政務調査会長)、熊谷克治(社)、文教林務常任委員長)、米村邦敏(社)各議員にそれぞれ講演の趣旨について説明。

●七月十三日(金)

「月寒、精進川」の件は紹介議員として星野(社)、関根(社)、本間(共)、高橋(公)各議員が署名してくれたので道議会に請願書として正式に提出した。

●七月十五日(日)

愛知県豊川で開催された第四期第九回理事会において理事団体に推せんされた旨、全国自然保護連合より通知あった。

●七月二十日(金)

狩猟鳥獣の捕獲禁止(コウライキジ、オスジカ、テン)についての公聴会が道庁にて開催され、当協会も意見書の提出を求められていたが、新妻理事が出席し「捕獲禁止賛成」の意見をのべた。

●七月二十日(金)

電源開発(河川工学)を委員長とする委員会システムにより実施し、調査を終了した段階において当協会のご意見を仰ぐ方針である旨、会長あて回答があった。

七月二十三日(月)

「月寒、精進川」の件について、市議会環境常任委員会で八木副会長より陳情されたが、さらに、常任委員の一ノ宮弥増治(自)、加藤隆司(自)、水由正美(社)大杉達司(共)、山本長和(公)、磯野開丈(新政クラブ)各議員にそれぞれ陳情の趣旨を、会長、事務局長、市川ほか二名が説明した。

●七月二十八日(土)

開発道道静内、中札内線の開設に反対し、日高山脈を守るために、北海道自然保護団体連合、十勝自然保護協会、旭川・大雪の自然を守る会、道岳連等の方々足並みを揃え、道庁赤レンガの会議室において、道土木部、生活環境部の関係者と意見の交換を行い、開設反対の意志表示をした。

●八月四日(土)

講演会 札幌市教育文化会館
演題 日高山系の植物
講師 鮫島惇一郎氏(国立林試北海道支場育種研究室長)

●八月十一日(土)

講演会 札幌市教育文化会館
演題 日高山系の動物
講師 芳賀良一氏(帯広畜大教授)

□受託調査事業の概要(続)

●道々士嶽、然別湖環境調査

委託者 北海道開発コンサルタント

(総事業費 一、六〇〇万円)

この線の開設計画が去る四十七年に表面化したおりに、ナキウサギの生息地を通過する危険のあることや、東ヌブカウシ山北斜面および西斜面にわたる地域が植物学上比類なき重大な地域であるとして当協会も開設反対の意志表示した経緯もあり、それらが総合され、残すところ二、五〇〇ha余の力所で事業が中断され、現在にいたっている。

しかるに、このたび道土木部の方で①このまま開設計画を廃案とすべきか?、②自然保護上重要と思われる力所をトンネル工法で抜ける案はどうか?、③別ルートが考えられないだろうか?の三案について断を下すための環境調査も含めた諸調査を一括して当該コンサルタントに委託したものであるが、当該コンサルタントでは環境調査についてのみ当協会が担当してほしいと委託するに及んだものである。

当該力所を含めた約五〇〇haにわたる地域についての地形、地質、地下水、植生、動物(小型、中型、大型哺乳類、昆虫類、鳥類、両せい類、は虫類、魚類)に及ぶ自然環境の現況調査を通して環境影響の予測、評価、保全対策についての意見、助言をうることをネライとされた調査である。即ち前述の三点についての是非、意見をのべるのをネライとされた

もので、来年度は、本年度の補足調査をしなから総合的な報告書作成という事業になる予定である。

調査の担当は、地形、地質、地下水が石川俊夫、八木健三両氏、植生は辻井達一、高畑滋両氏、動物は阿部永、山之内統、川辺百樹、島田明英の各氏らがそれぞれの中となる。

●鶴川河口干潟周辺の野鳥、植生調査

委託者―鶴野外科学

委事業費 六〇万円

鶴川河口は、従来より海流、満潮、川の増水などの関係で、海岸線に沿って平行的に走る潟湖に一つの干潟を作り、さらに河口縁に砂質性のもう一つの干潟を作っており鳥類とくにシギ、チドリ類の飛来地としても重要なところであるが、この河口附近に導水堤を作ろうとする動きもあり、その可否を検討することもネライの中に含まれている調査である。

□受託調査事業の報告

●高見発電所及び関連施設周辺の植生

高見発電所は日高山脈中部イドンナップ岳周辺から西流する静内川中流部に建設される。本調査では発電所ならびに関連施設を中心とし、あわせてその周辺地域の植生を対象とした調査であり、日高山系における植物学上の位置づけ、重要・貴重な植物の出現の可能性の考えられる地域内の断崖、岩壁の調査ならびに諸施設の建設部位の植生の把握に重点がおかれた。

この調査、資料に関するかぎりでは本地域にはとくに顕著な高山植物の下降はみられない。プリムラ属の一種や、タカネやハズハハコらしいものの存在、やや稀少なアオチャセンシダや石灰岩植物としてのクモノスズダの所生も注目すべきことである。また、バックウォーター付近、ホロカウナイ沢斜面にある若干のキタゴヨウ群落も日高地方の注目すべき分布種である。

また、北斜面に概してシダ型、スゲ型の植生類型がみられ、南斜面にはササ型がみられる傾向も、植生の回復を考えるときの参考となるだろう。なお、植生の保全計画、施設跡地の緑化計画には今回の調査結果を十分に生かされること望ましいとまとめられている。

(発行者―道自然保護協会、五十二頁、写真九、図表一六、調査担当―辻井達一氏)

●日高山系自然生態系総合調査報告書

本調査は昭和五十一年度から五十三年度までの三カ年にわたって調査されたもので、日高山系の動植物等に関しては断片的な調査報告があるにとどまり、総合的な調査研究がなされていたので今回の報告は貴重なものといえるだろう。

(動物篇)

動物の調査は昭和五十三年度のみで日高山系全体を調査できなかったが、少なくとも哺乳類、鳥類については北部域、中部域の主要な地域の調査を行うことができた。また昆虫類は蝶類に限定されていることなどで、今後も補完調査を行う必要があるだろうが各調査結果からみる

と、日高山系の動物相は北海道に一般的なものであり特殊性は認められない。

しかし、高山帯においては哺乳類ではナキウサギやヤマムクゲネズミの生息が特筆される。鳥類についてはカヤクグリ、ギンザンマシコ、ハギマシコ、ルリビタキなどが生息し、特に重要な種は含まれていないが、カール内の鳥類群集は急峻で単調な稜線や山腹と異なり、貴重な存在である。昆虫類は幌尻岳においては、天然記念物であるカラフトトリシジミ、ダイセツタカネヒカゲなどが含まれ、特に後者は大雪山系のもとの別種である可能性があるという。

また、エゾツマジロウラジヤノメは日高山系のみ分布が局限されるなど、カール地形や植生と密接な関連を有している。

は虫類、両生類については、カール内においてエゾサンショウウオとエゾアカガエルが観察されたのみで、特筆すべきことは認められなかった。しかし、分類、形態、生態などについてさらに調査する必要がある。

動物学上の問題点については、それぞれの部門で論議されているが、それらを総括すると、日高山系の地史的背景と動物相との関係が、極めて重要であることが明らかである。したがって、日高山系の高山帯にみる、いまだ人為的影響を強くうけていない現存する原生自然環境の生態系は、将来そこに及ぼされるかもしれない、いかなる人為的改変からも保護することが必要である。また学術研究お

よび教育の用に供するとともに、人類の文化的遺産として恒久的に確保されなければならない地域であるといえる。

(発行者―道、一〇六頁、写真六、図表九三。調査担当―芳賀良一、藤巻裕蔵、小野山敏一、平井剛夫、田中栄一の各氏)

(植物篇)

全体的にみて、日高山系の海拔高およびその六〇〇〜八〇〇m以上の部分は、植物相の原始性が損われておらず、山岳、峡谷の峻険さを加えた総合的景観は大雪山国立公園に勝るともいえる地域であり、この地域の保全、保護はこうした原始性を損わない対策によってのみ可能であろう。

○特に保護すべき地域

1 幌尻岳―戸尾別岳―美生岳域……この地域は、森林、峡谷、カール、高山植物群落などの組合せにおいて山脈中すくられたものひとつとして、少なくとも海拔七〇〇m以上の部分は保護が必要である。

2 カマイエクウチカウシ山―8の沢―9の沢域……この地域は、北部日高の南端となり、原生的森林と深い峡谷、カール群と矮性灌木植物群落、高山草原群落によって特徴づけられる。

3 コイカクシエサツナイ岳―ヤオロマップ岳―ベテガリ岳域……深い峡谷、急峻な斜面A、B、Cのカール群、ハクサンイチゲの群落、ウコンウツギ群落など中部日高を代表する地域であり原始性のよく保たれている峡谷がとくにすくれている。

- 4 神威岳—エゾマツ岳—中ノ川域……
原始性を保つてゐる峡谷に支えられた
南日高を代表する地域である。
 - 特に保護すべき山岳と高山性植物
群落
 - 1 ベンケヌシ山……とくに海拔高八〇
〇m以上を保護すべき範囲とする。
 - 2 千呂露岳……かんらん岩特有の植物
群落と、高山植物群落の組合わせによ
るすぐれたお花鳥をもつ山岳である。
 - 3 エサオマントツタベツ岳……北カ
ル、東カールをもち、まとまつた高山
植物群落を有する山岳として保護する
必要がある。
 - 4 トヨニ岳、野塚岳、オムシヤヌプリ、
菜古岳……南部日高の貴重な高山植物
群落である。
- 特に保護すべき森林
- 1 日勝峠ダケカンバ林
 - 2 ウエンザル川針葉樹林
 - 3 春別川針葉樹林（春別川上流域）
 - 4 菜古川広葉樹林（菜古川上流域）
- （発行者—北海道、総説篇を含めて四三
二頁、写真一一、図一五〇、表一一一。
調査担当—飯島博一郎、佐藤 謙、森田
健次郎、塩崎正雄、樋口正信、野崎 裕
清水雅男、岸田昭雄、高橋邦秀、真田
勝、馬場繁幸の各氏）
- 苫小牧市自然環境将来予測等継続調査
五十三年度の調査は、五十一年度から
始められたこの調査の三年度目として計
画、実施されたもので、地衣類と土壌動
物（トビムシ類）の二項目とされた。
地衣類については樽前山南斜面ならば

に市街地の調査であり、土壌動物につい
ては、市街地—湿原—草原—人工林—二
次林という自然度の勾配をカバーすべく
従来はステーションを設定してきたが、
本年はこれに加えて海浜から内陸へとい
う環境の勾配を考慮し、これに実施した。
地元群落は市街地型と郊外型に二大別
され、代表的な地衣類の分布域とほぼ一
致し、市における地衣類のチェックリス
トを作製することができた。

また、この三年間でトビムシ類は少な
くとも四二種を記録したことになる。市
のトビムシのフアウナは次第に明らか
なってきたといえる。今後は、従来にも
増して多数のサンプルをとる必要がある
し、それを処理する人手もまた入用であ
るが、できれば当市在住の方々の手で
この仕事をつづけてほしいものである。

（発行者—道自然保護協会、五七頁、写
真二五、図一〇、表一六。調査担当—地
衣類—柏谷博之、土壌動物—伊藤誠夫の
各氏）

●石狩川中、下流域における鳥類生息
調査報告書

石狩川河口域における秋—冬の鳥類は
五七種（ガン、カモ類九種、シギ、チド
リ類一八種、カモメ類七種が含まれてい
る）を記録した。また夏鳥、旅鳥の渡去
は、十月一杯をもってほぼ終った。

ガン、カモ類については、十月中旬以
前は水面採餌のカモ類が、それ以後は潜
水カモ類が渡来した。

シギ、チドリ類は九月上旬に渡来のピ
ークを迎え、その後減少して十月終りか

ら十一月初めにかけて一時増加し、十一
月上旬で渡来が終わった。

カモメ類はウミネコ、カモメが大半を
占め、十一月上旬を境に、前半はウミネ
コが優先し、後半はカモメが優先した。
スズメ目については夏期の種類構成と
ほぼ同じだが、夏期に記録されなかった
ムクドリが多かった。十一月三日までに
渡去した。

石狩川河川敷における夏鳥は三八種を
記録した。カワラヒワ、ムクドリ、ハン
ボソカラスが多く、次いでコヨシキリ、
ホオアカ、ヒバリなどが多かった。

（発行者—道自然保護協会、一七頁、図
四、表五。調査担当—島田明英氏）

お知らせコーナー

●第九回北海道自然保護シンポジウム
の開催

主催 北海道自然保護団体連合
主管 十勝自然保護協会
期日 九月一日（土）—二日（日）
主題 日高山系その他道路問題を考える

1 シンポジウム（二日目）
会場 全て、共済会館（帯広市内）
時間 十三時より
主題 日高中央横断道路問題

2 巡検（二日目）
テーマ 土幌高原道路（九時スタート）
総括会議 北大土幌小屋（十四時〜）
閉会 十六時
参加費 二、五〇〇円
宿泊者の参加費用 四、八〇〇円

●第九回全国自然保護大会の開催

主催 全国自然保護連合
期日 八月二十五—二十六日（土、日）
1 総会、記念講演、分科会（一日目）
会場 呉羽ハイツ（富山市城山）
2 現地報告、分科会報告、パネルディ
スカッション、全体会議（二日目）
会場 前日に同じ

●展記のおわび

前号の記事中に「読売新聞記者・紺谷
友昭氏」とすべきを「北海タイムス」と
誤記したことをお詫び致します。

●「北海道の自然保護」
会員・俵 浩三氏の三〇八頁に及ぶ出
版物。事務局にも在庫若干がある。
北大図書刊行会発行・一、六〇〇円、
送料一六〇円。

●山岳圖カレンダー
一九八〇年度カレンダー・坂本直行氏
による山岳面を九月より販売する予定で
す。一、〇〇〇円、北海道自然保護団体
連合発行。ご希望の方は事務局へ。

昭和五十四年八月十五日発行

○六〇 札幌市中央区北一条西七丁目
広井ビル五階

発行所 北海道自然保護協会
電話 〇二二六—一六五八六（代）
〇二二六—一五四六五（宅）
郵便振替 口座小樽四〇五五
北海道振替銀行本店 〇七二五九
北海道銀行本店 〇一四四四

発行人 石 川 俊 夫
印刷 札幌印刷株式会社